

## W69a MAXI/GSC が検出した 2021 年度前半の突発現象 – X線新星 MAXI J0903–531 と MAXI J1803–298 の発見

根來均, 中島基樹, 小林浩平 (日大), 三原建弘 (理研), 山岡和貴 (名大), 北古賀智紀, 岩切渉 (中央大), 芹野素子 (青学), 志達めぐみ (愛媛大), 菅原泰晴 (JAXA), 山田智史 (京大), 松岡勝 (理研) 他 MAXI チーム

全天 X 線監視装置 MAXI/GSC により、2021 年度前半に発見検出した突発現象について報告する。4 月 14 日に MAXI/GSC 突発天体発見システムにより、X 線新星 MAXI J0903–531 が発見された (Yamaoka+ ATel 14555)。その後 Swift/XRT により詳細な位置が得られ (ATel 14557), NICER により約 14 秒の周期が検出された (ATel 14559)。また、可視等の観測から伴星が Be 星であることもわかった。5 月 1 日には、X 線新星 MAXI J1803–298 が発見された (Serino+ ATel 14587)。ソフト状態に遷移したその特徴からブラックホールの可能性が高く (Shidatsu+ ATel 14627)、引き続き電波から硬 X 線領域にわたり多くの追観測が行われている。

また、Be パルサー XTE 1829–098、低質量連星系 SAX J1810.8–2609 と 4U 1705–32 の新たなアウトバーストを検出し、ATel に報告した (それぞれ、ATel 14554, 14649, 14663)。4 月 18 日と 6 月 7 日には、1 スキャン観測のみで受かる短時間増光を検出した。前者は RS CVn 型連星 EI Eri からのフレアである可能性が高く、その場合 MAXI では初検出となる (ATel 14561)。後者はバルジ領域 ( $l, b \sim (4.2 \text{ deg}, 5.8 \text{ deg})$ ) に位置することからも GRB ではなく新天体の可能性もあり、MAXI J1733-222 と命名した (ATel 14683/GCN 30150)。

本期間中、4 つの GRB、210320A (GCN 29676), 210521A (GCN 30067), 2100528B (GCN 30094), 210602A (GCN 30113) も検出した。講演では、新天体の発見とその特徴を中心に報告する。